

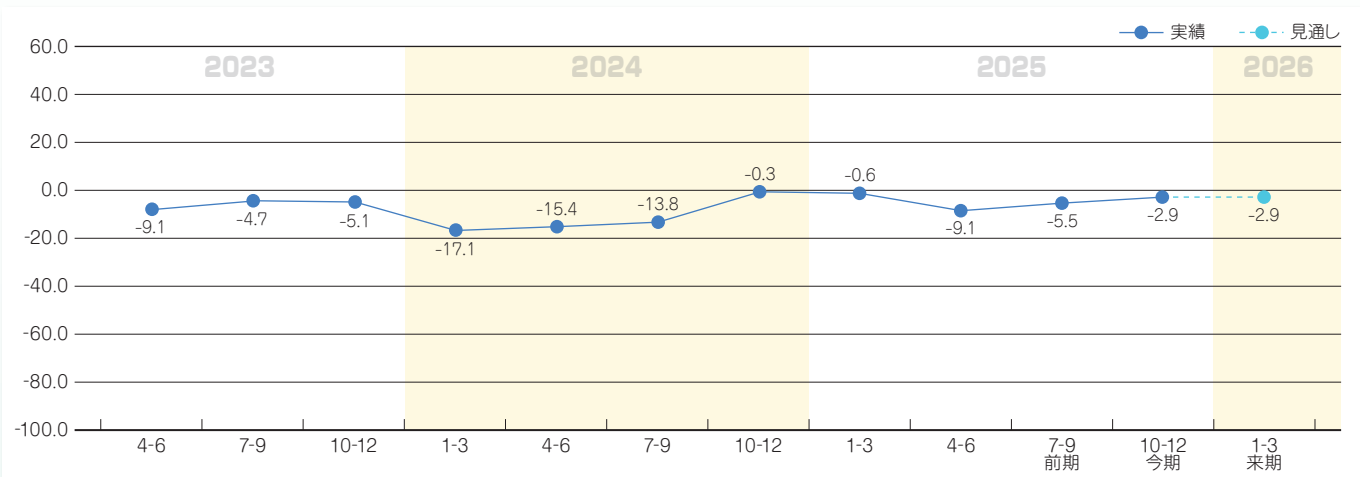


## 全業種

回答数307社

今期の業況D-Iは、前期比2.6ポイント上昇の▲2.9と、2期連続で改善。業種別では、卸売業、サービス業、建設・不動産業で改善。製造業、小売業は悪化した。また、サービス業を除くすべての業種で資金繰りD-Iが低下した。来期の予想業況D-Iは、▲2.9と横ばいの見通し。業種別では、製造業は改善の見通しだが、その他の業種は悪化の見通し。

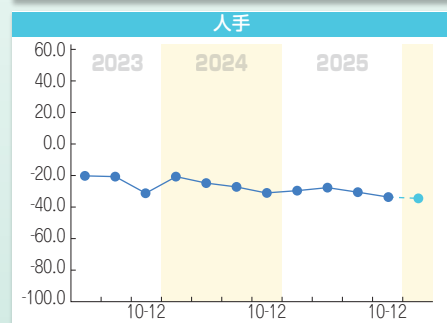
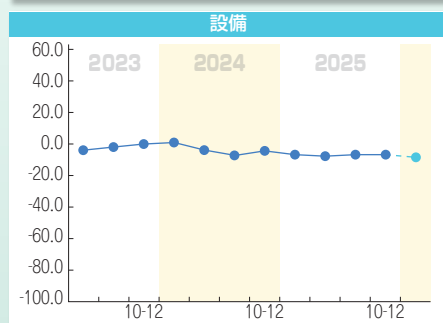
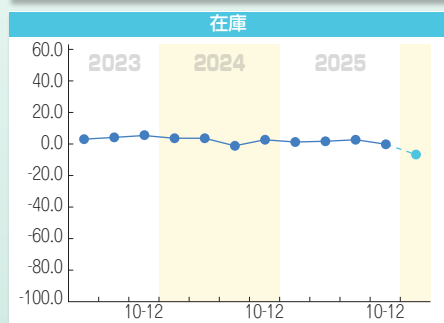
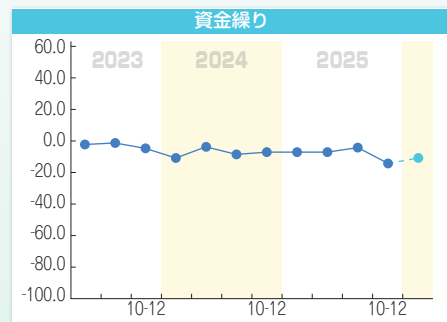
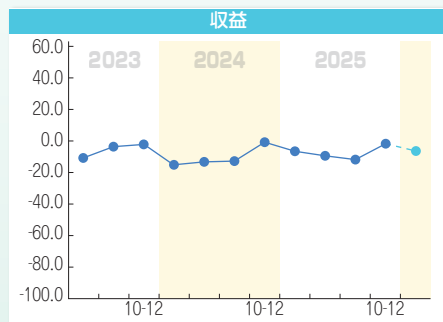
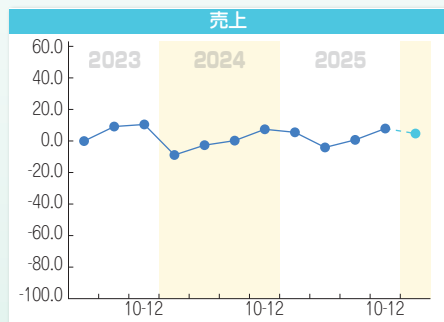
前期実績 今期実績 来期見通し

業況D-I  
の推移

## 主要D-Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



## へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査  
概要

実施時期 2025年12月1日～5日  
対象企業 307社  
対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

## 天気図の見方



D-I(ディフュージョン・インデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)－(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

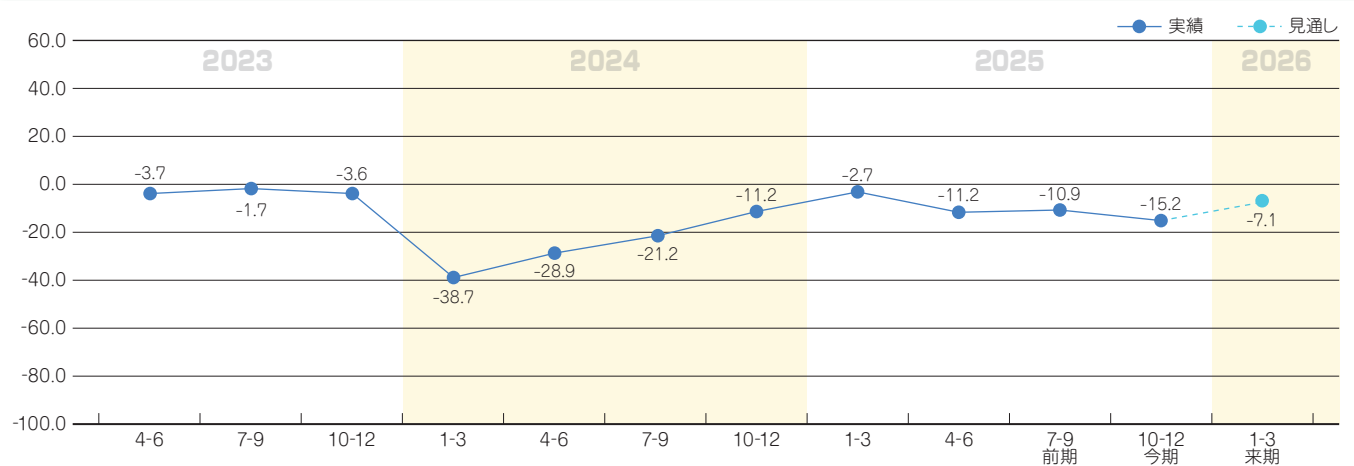


## 製造業

回答数112社

今期の業況D・Iは、前期比4.3ポイント低下の▲15.2と、悪化した。収益D・Iはわずかに改善。コスト高の影響が続いているが、粘り強い単価交渉により収益が改善したとの声も聞かれた。一方で資金繰りD・Iは低下。来期の予想業況D・Iは、8.1ポイント上昇の▲7.1と改善の見込み。

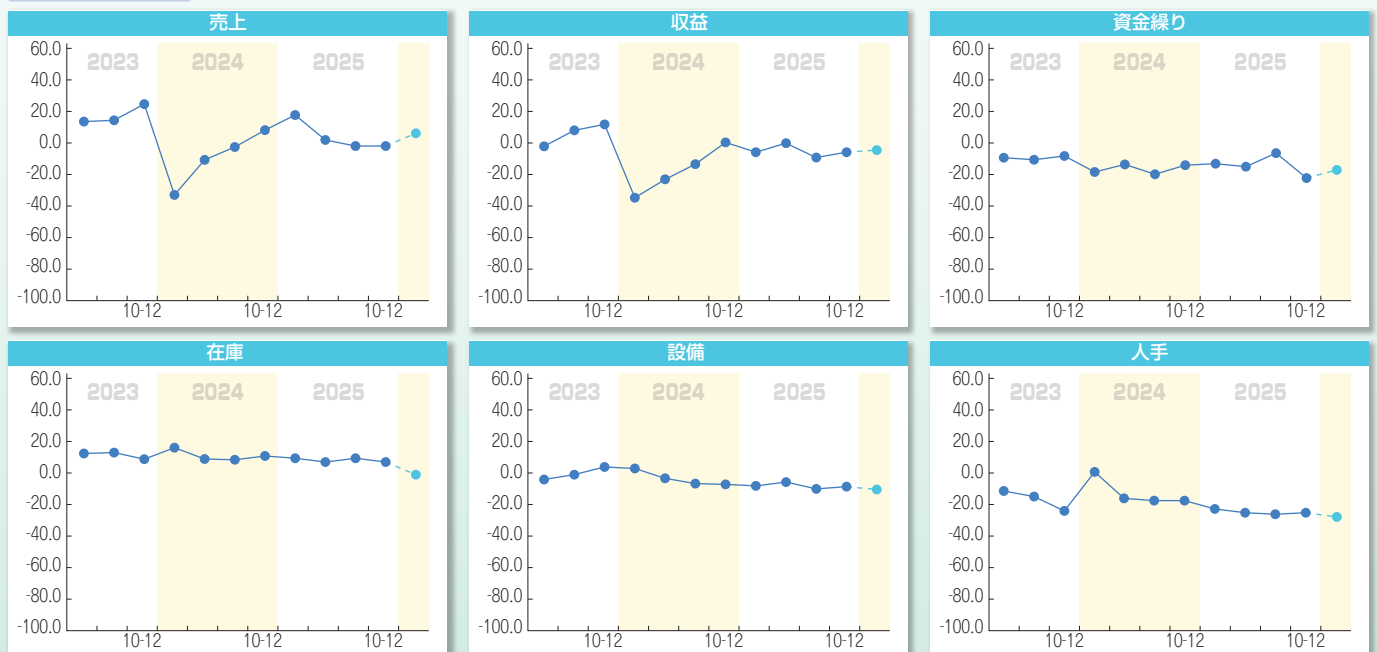
業況D・Iの推移



### 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

●実績 ●見通し



- 老朽化した水道管の取り替えニーズにより、今後も受注の安定が見込まれる。(鋳鉄製品製造)
- 人員確保に成功し、残業時間の減少など雇用面の改善が見られた。(自動車部品製造)
- トランプ関税の影響もあり、受注が減少傾向。仕入れコスト、人件費増加に伴い収益は悪化。販路拡大や機械化の推進、業務効率化が必要。(自動車部品製造)





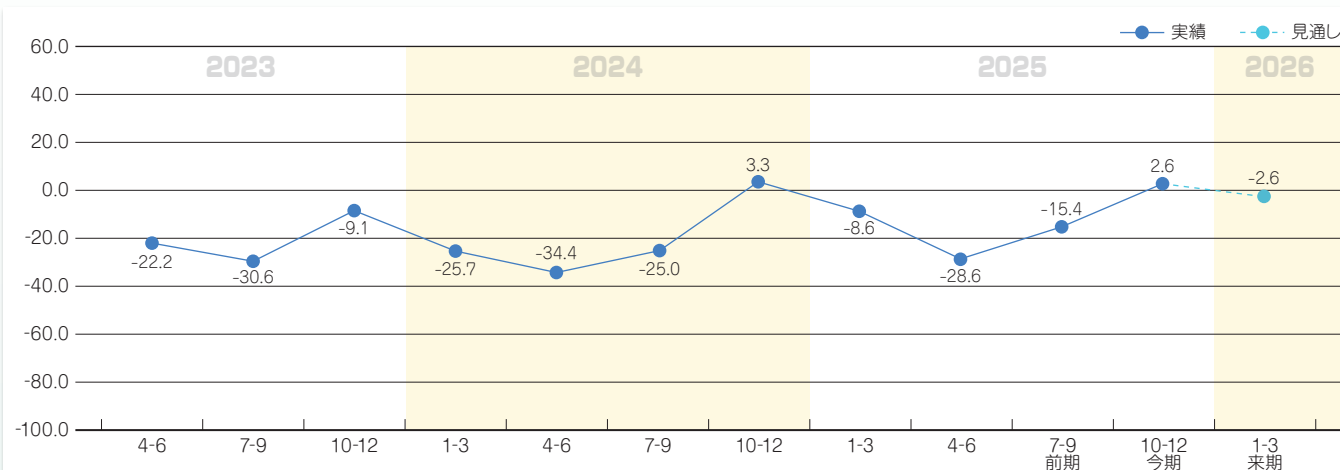
## 卸売業

回答数38社

今期の業況D・Iは、前期比18.0ポイント上昇の2.6と、2期連続で大幅に改善。4期ぶりにプラスに転じた。収益D・Iは4期ぶりに大幅に改善。一方で、依然として物価高の影響で収益が減少しているとの声もある。来期の予想業況D・Iは、5.2ポイント低下の▲2.6と、悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

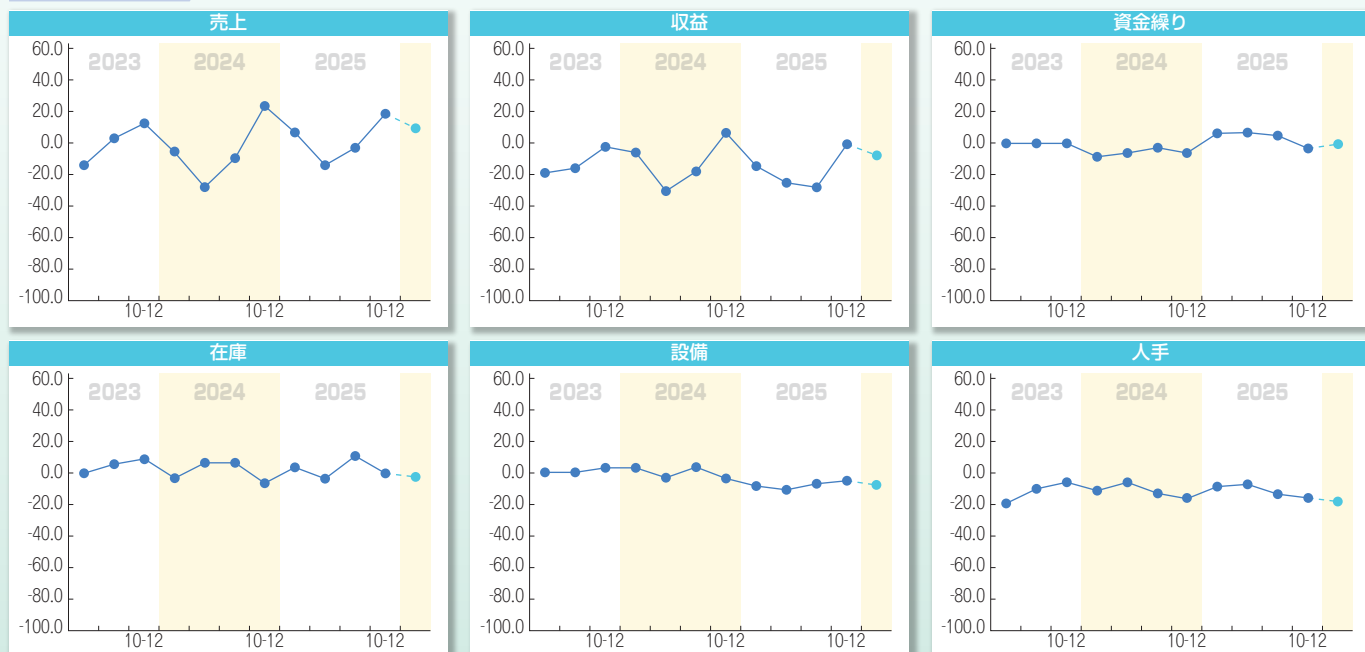
業況D・Iの推移



## 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 販路拡大に積極的に取り組んでいる。機械の老朽化や工場が手狭なこと等の課題が解決できれば、さらなる売上拡大が見込める。(食品卸売)
- 新規案件の話があったが、トランプ関税、日中関係悪化、政策金利引き上げ等により延期となった。(鋼材卸売)
- 売上は上昇傾向であり、資金繰り等も問題ないが、人手不足と人件費増加への対応が今後の課題。(建築材料等卸売)

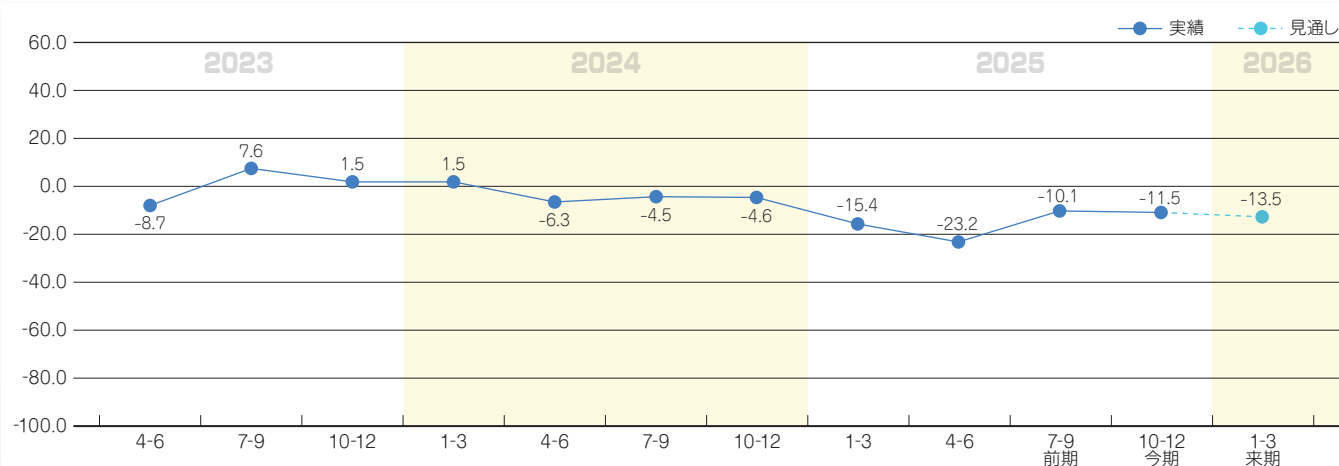
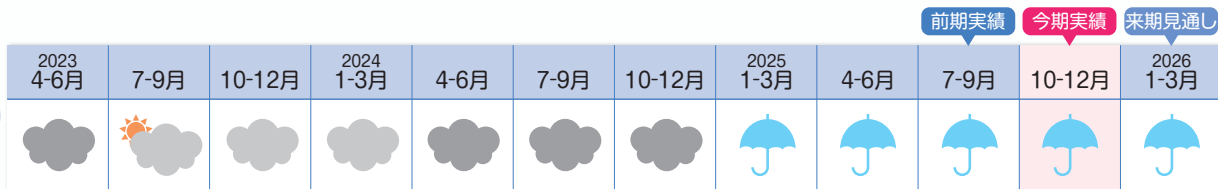


## 小売業

回答数52社

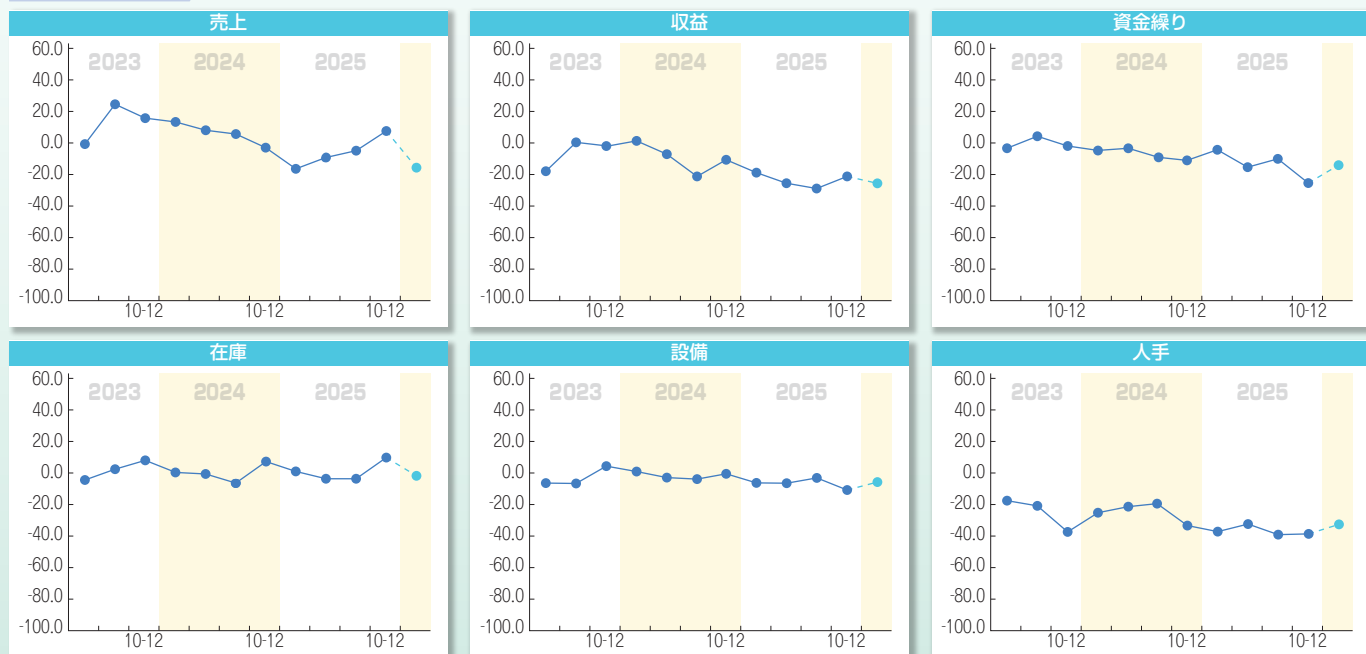
今期の業況D・Iは、前期比1.4ポイント低下の▲11.5と、わずかに悪化。売上D・Iは3期連続で改善しプラスに転じたが、収益D・Iは低水準での推移が続いている。資金繰りD・Iは大幅に低下。来期の予想業況D・Iは、2.0ポイント低下の▲13.5と、来期も悪化の見通し。

業況D・I  
の推移



### 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



- 販路拡大により、売上は増加傾向。仕入価格が上昇しているので、まとめて仕入れを行うようになり、在庫過多となっている。(食品販売)
- 客足が天候に左右され、良いときと悪いときの差が激しい。(時計・宝石販売)
- 11月に創業祭を実施したこともあり、売れ行きは好調。今後は訪問件数を増やし接点拡大を図る。(家電販売)





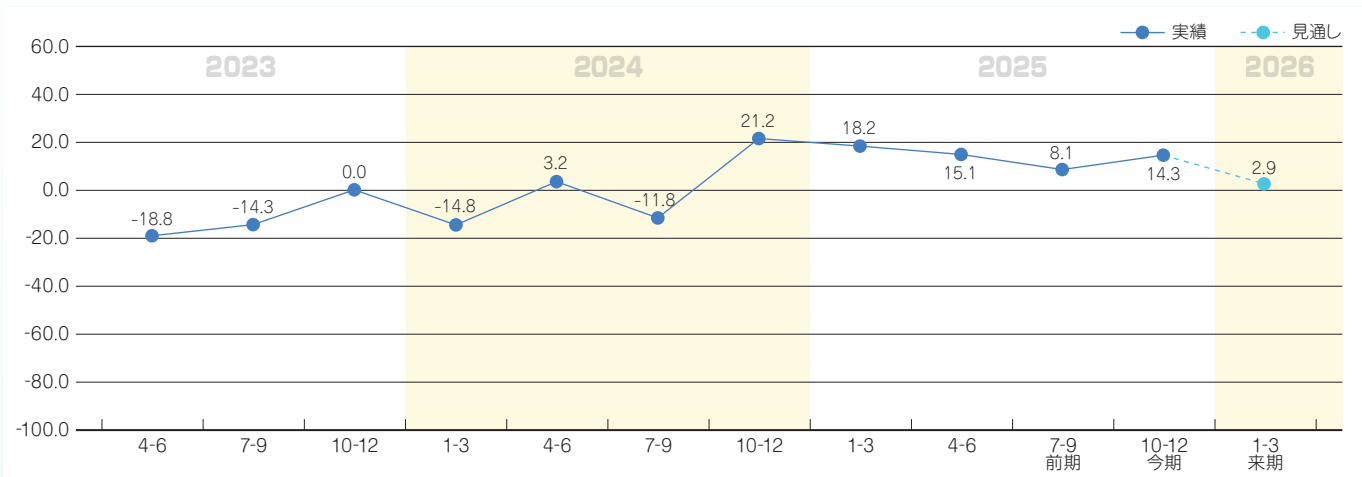
## サービス業

回答数35社

今期の業況D・Iは、前期比6.2ポイント上昇の14.3と、改善。売上D・I、収益D・I、資金繰りD・Iともに上昇しプラス水準となった一方で、人手D・Iは大幅に低下した。人手不足解消に向け業務効率化等に取り組んでいるとの声もあるが、約7割の企業が不足（「やや不足」または「不足」）と回答。来期の予想業況D・Iは11.4ポイント低下の2.9と、悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

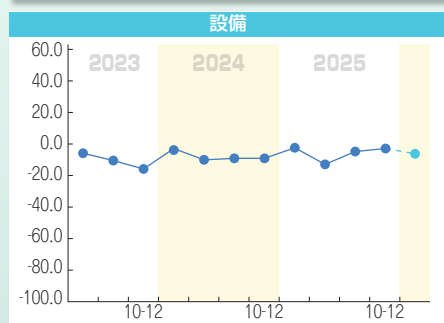
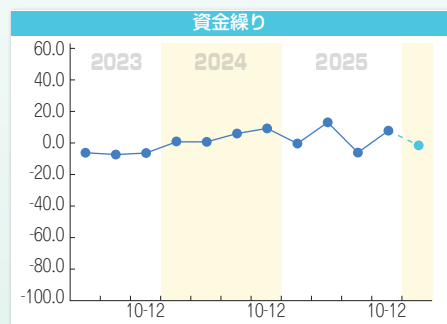
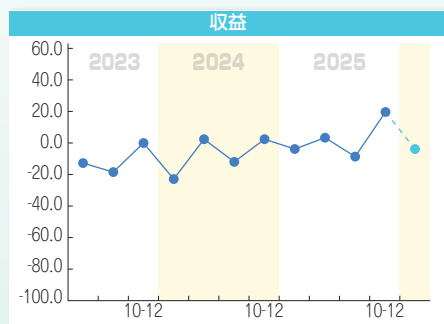
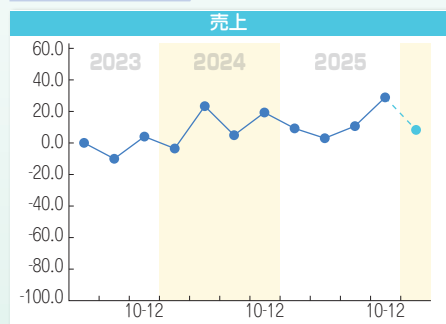
業況D・Iの推移



## 主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 店舗改修工事中だが、少しでも多くのお客様に対応できるよう、通常どおり営業している。  
美容業界全体で人手が不足している。(理美容業)
- 子会社を新設し、事業の専門性を高め、効率化を進めている。(自動車学校)
- 各店舗にデジタルレジを導入したことにより人手不足解消。(クリーニング店)

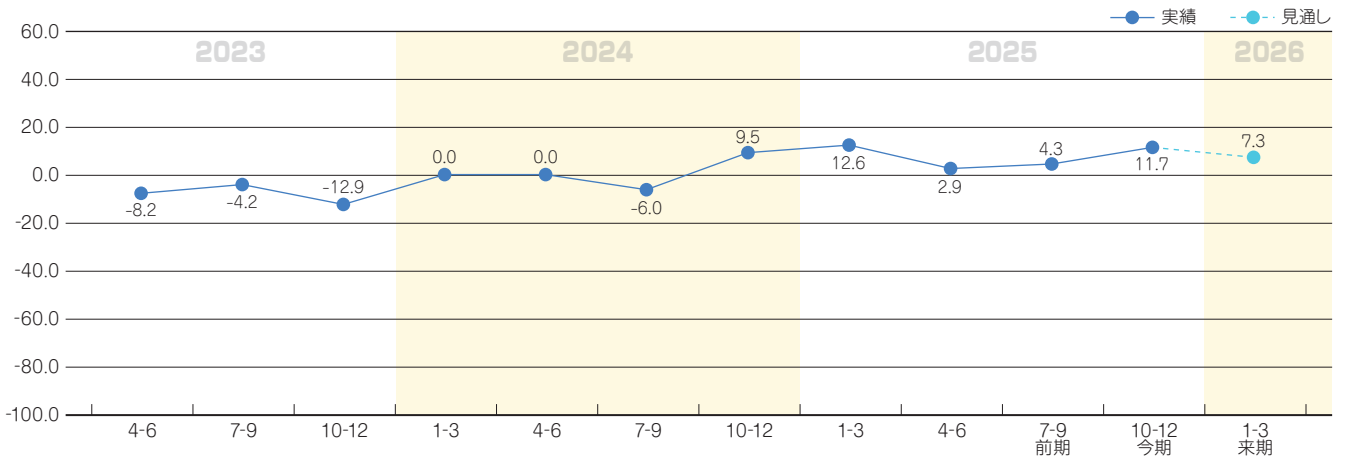
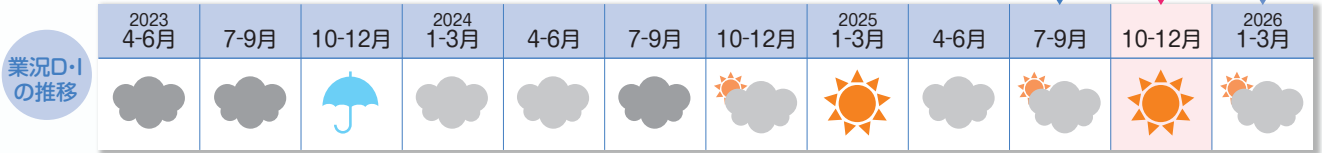


## 建設・不動産業

回答数68社

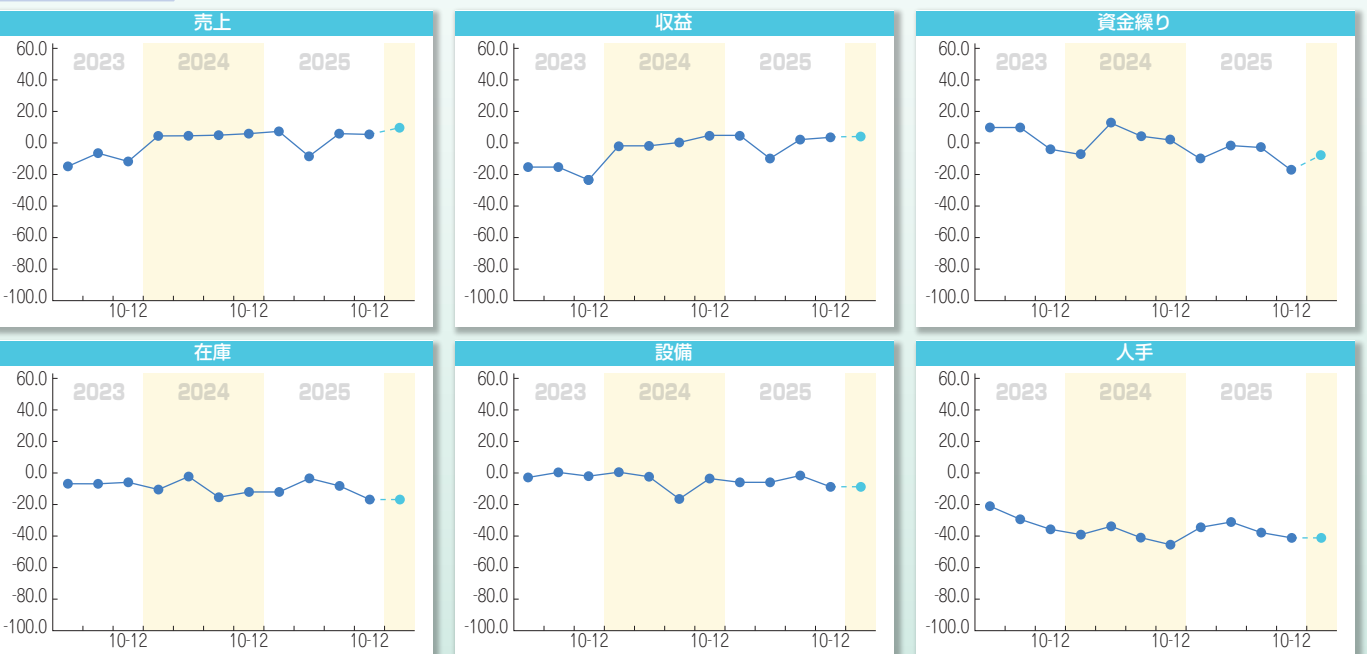
今期の業況D・Iは、前期比7.4ポイント上昇の11.7と、2期連続で改善した。売上D・I、収益D・Iともに小幅ながらも改善し、プラス圏での推移が続いている。一方で、資金繰りD・Iは大幅に低下。特に不動産業でマイナス幅が大きい。来期の予想業況D・Iは、4.4ポイント低下の7.3と悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し



### 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



- 材料価格の上昇により利益が減少している。引き続き価格転嫁を行い、利益率の改善を図る。(建築)
- 価格転嫁はそれなりにできているが、受注がそこまで安定しておらず、先の見通しは立てづらい。メイン受注先以外にも取引先を広げたいが、今の戦力ではなかなか手が回らない部分もある。(建築および不動産仲介)
- 引き続き安定した家賃収入を得るために家賃交渉が必要。(不動産賃貸)

